

加茂市総合計画

基本構想（素案）

2021年5月14日版

企画財政課

(市長あいさつ)

未定稿

はじめに

この総合計画は、加茂市の人口が1950年(昭和25年)の39,887人をピークに減少が続いて、今後、本格的な人口減少と少子高齢化のさらなる進行が見込まれる中、およそ四半世紀ぶりに策定した総合計画です。

「加茂に住みたい」、「加茂にいつまでも住み続けたい」と思われるまちを目指し、「笑顔あふれるまち加茂」の実現のための基本指針として令和3年9月に策定しました。

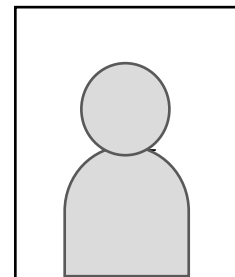
本計画は、市民アンケート、中学生アンケート、市民ワークショップなど市民の方々の意見を踏まえて計画内容を検討するとともに、基本構想を「加茂市の目指す将来像」として概ね10年、前期基本計画を「行政運営のプラン」として計画の実効性を高めるため5年としています。

市民ニーズが多様化し、行政課題が複雑化する中、本計画に掲げる施策を実現するためには、行政内部の連携はもとより、市民・NPO・事業者・行政など多様な主体がネットワークを形成し、共に考え行動する「協働」により取組を進めることが求められます。

本計画では「協働」を明記し、市民の役割分担として「市民ができること」を明記していますので、市民の皆様におかれましても、できることから取り組んでいただくことを期待しています。

最後になりましたが、本計画の策定に当たりまして、ご審議いただきました総合計画審議会及び市議会の皆様並びに貴重なご意見を賜りました市民の皆様には厚くお礼申し上げますとともに、引き続き、ご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

加茂市長 藤田明美



基本構想

序章	総合計画策定にあたって	1
	1. 総合計画策定の趣旨	
	2. 総合計画の性格・位置付け	
	3. 総合計画の期間	
	4. 総合計画の構成	
第1章	加茂市の目指す姿	113
	1. まちの将来像	
	2. まちづくりの基本目標	
第2章	まちづくり基本方針の推進	135
	1. 連携と協働によるまちづくり	
	2. 人口減少に対応できるまちづくり	
第3章	社会経済状況の変化と加茂市の特性・課題	36
	1. 人口減少と少子高齢化	
	2. 安全・安心への意識の高まり	
	3. 社会経済や構造の変化	
	4. 財政の深刻化	
	5. 公共施設の老朽化	
	6. 自然・文化・伝統	
第4章	市民意識調査	8-10
	1. アンケートについて	
	2. 市民ワークショップについて	

※目次については、冊子を作る段階で再度検討する予定です。

※章については、~~検討中~~

基本構想

計画の策定にあたって

加茂市の目指す姿

まちづくりの推進

社会経済状況の変化と加茂市の特性・課題

市民意識調査

1序章 計画策定にあたって

1. 総合計画策定の趣旨目的

総合計画は、まちの将来像を描き、その将来像を実現させるため、市が取り組むべき施策の方向性を示すもので、さまざまな取組の基本となるものです。市民とまちの将来像と課題を共有し、協働して計画的にまちづくりを進めるために「**加茂市総合計画（仮）**」を策定します。

2. 総合計画の性格・位置付け

平成 23 年の地方自治法改正により、議会の議決を経ることの義務付けが廃止されました。しかし、総合計画は、まちづくりの基本方針として重要であることから、「基本構想」については、加茂市議会の議決を経て策定し、市の最上位計画とします。

3. 総合計画の構成

加茂市総合計画は、基本構想及び基本計画で構成します。

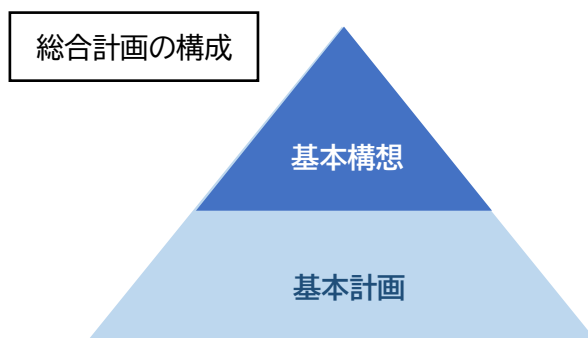
~~（イメージ図は検討中）~~

○基本構想（10年）

加茂市が目指す姿（将来像）を描きます。その将来像を実現するため、分野ごとの6つの基本目標を定めます。

○基本計画（5年）

施策ごとに目標とするまちの姿や、行政が取り組む施策を示します。



4. 総合計画の期間

中長期的な視点に立って、市が取り組んでいく今後の施策の基本的な方向を示すため、基本構想は10年間、基本計画は前期と後期に分けて、それぞれ5年間とします。

(※図を追加)

基本構想と基本計画の計画期間										
年度	R3 2021	R4 2022	R5 2023	R6 2024	R7 2025	R8 2026	R9 2027	R10 2028	R11 2029	R12 2030
基本構想	基本構想(10年)									
基本計画	基本計画(前期)									
						基本計画(後期)				

1.4章 加茂市の目指す姿

1. まちの将来像

総合計画においては、目指すまちの将来像を、次のとおり定めます。

「~~つながり~~ ~~支えあい~~ ~~みんな~~でつくる 笑顔あふれるまち 加茂」

(将来像に込めた思い)

総合計画を策定し、まちづくりに取り組むことで、
人と人、地域と地域が、つながり
さまざまな世代の人々が、支えあい
一人ひとりがまちづくりに参画して、みんなでつくる
幸せ・喜び・安心でもっとたくさんの、笑顔あふれる
まち「加茂」を実現します。

(修正案は別紙のとおり)

2. まちづくりの基本目標

まちの将来像を実現するため、**12**分野ごとの基本目標を、**1**次のとおり定めます。

(1) 子育て・教育

未来を担う子どもたちが夢と希望にあふれ育つまち

地域で子育てを支え、教育を充実させることで、子どもたちが心豊かに成長できるまちをつくりまします。

(2) 健康・福祉

ともに支えあい、だれもが安心して健やかに暮らせるまち

誰もが住み慣れた地域で健康で安心して暮らせるまちをつくりまします。

(3) 生活・環境、生活基盤

安全・安心で環境にやさしいまち

災害に強く安心して生活できるまちをつくりまします。自然環境に配慮したまちをつくりまします。

(4) 芸術・文化、スポーツ、自治・人権

学び、集い、ふれあって、自分らしく活動できるまち

生涯を通じて学びや芸術やスポーツに触れる機会を提供します。市民が自ら考え、地域で自分らしく活動できるまちをつくりまします。

(5) 産業・雇用、都市の魅力創造

人が集い、賑わいと活力があふれ、稼ぐ力と雇用を生み出すまち

地域の魅力を活かして、人が集まり、賑わいと活力のあるまちづくりを進め、経済を活性化させ働く場所を創出します。

(6) 行政活動

社会の変化に対応し、市民に寄り添い、未来への責任を担うまち

目まぐるしく変化する社会に対応し、市民の声に耳を傾け寄り添いながら、持続可能なまちをつくりまします。

2.5章 まちづくりのを推進する基本方針

総合計画に基づくまちづくりを進める推進する上で、~~ため、常に踏まえるべき共通の基本的な方針考え方を、次のとおり定めます。~~

1. 連携と協働によるまちづくり

~~—市民と行政の連携だけでなく、国や県、他市町村などの地域間、分野横断的な政策間などさまざまな連携を図ります。市民や地域などと行政がそれぞれの役割を担いながら、協働してまちづくりを進めます。~~

まちづくりの主役・中心は、市民です。加茂市は、市民や事業者をはじめとする多様な主体と連携・協働しながら、まちづくりを推進します。また、国や県、他市町村などとも連携し、様々な課題の解決に取り組みます。

2. 人口減少に対応できるまちづくり

(1) 経営の視点を持った行政運営

人口減少・少子高齢化が進むことで、老朽化した公共施設維持、財政運営、地域コミュニティ維持など課題が生じているほか、教育や福祉などの分野でもこれまでの取組では対応できない変化が起きています。~~行政経営の視点を持ち、人口と財政のバランスのとれたまちづくりを推進します。~~を実現します。

(2) 証拠に基づく政策立案（EBPM：Evidence-Based Policy Making）の推進

限られた資源を有効に活用するため、施策や事業の立案にあたっては、目的を明確化して客観的なデータや合理的根拠に基づいて行います。

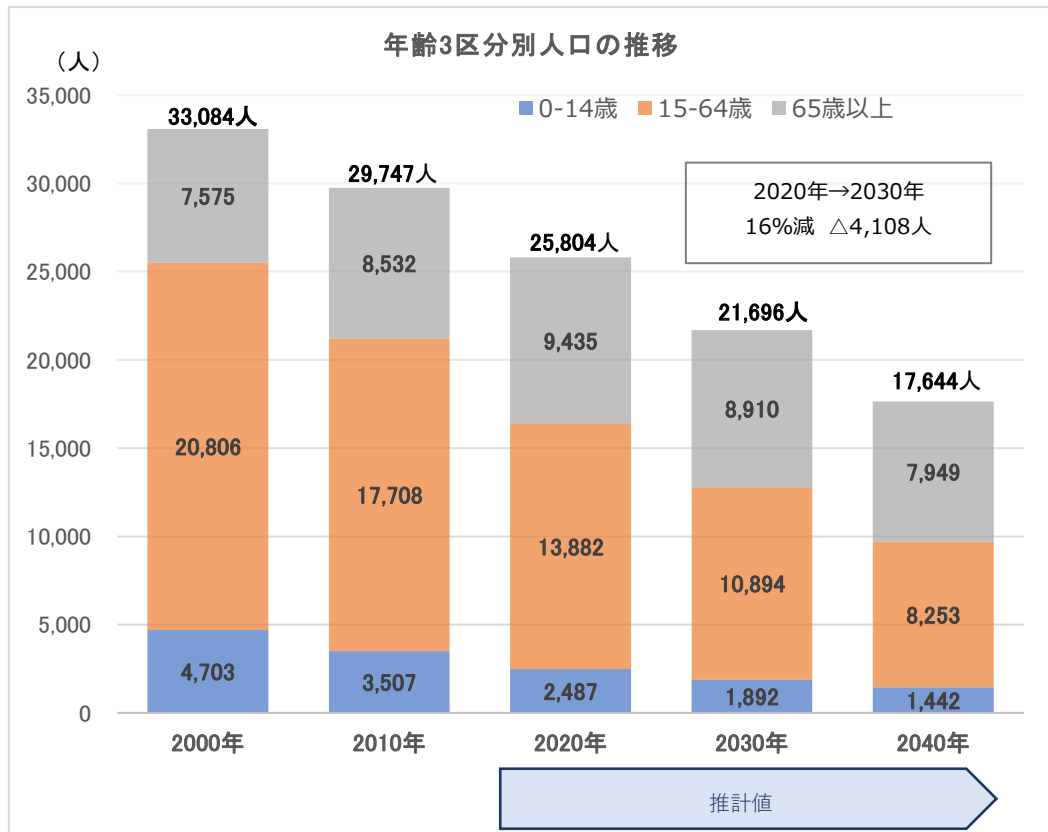
3.2章 社会経済状況の変化と加茂市の特性・課題

基本構想策定の背景となる主な社会経済状況の変化と、加茂市の特性・課題としては、次のようなことがあげられます。

1. 人口減少と少子高齢化

- ・ 加茂市の人口は、昭和 25 年 (39,887 人) から減少が続いています。き、令和 2 年では〇〇〇人 (2020 年国勢調査 (速報値)) となりました。
- ・ 国立社会保障・人口問題研究所によれば、加茂市の人口は今後さらに減少し、2030 年には 21,696 人になると推計されています。
- ・ 国全体としては、平成 20 (2008) 年を境に人口減少局面に入り、新潟県としては、平成 9 (1997) 年の 249.2 万人をピークに減少が続いています。ました。
- ・ 出生数は、年間 130 人 (5 年平均) 程度で推移していますが、出生数も減少傾向にあります。(資料 新潟県福祉保健年報)

図1 加茂市の人口の推移

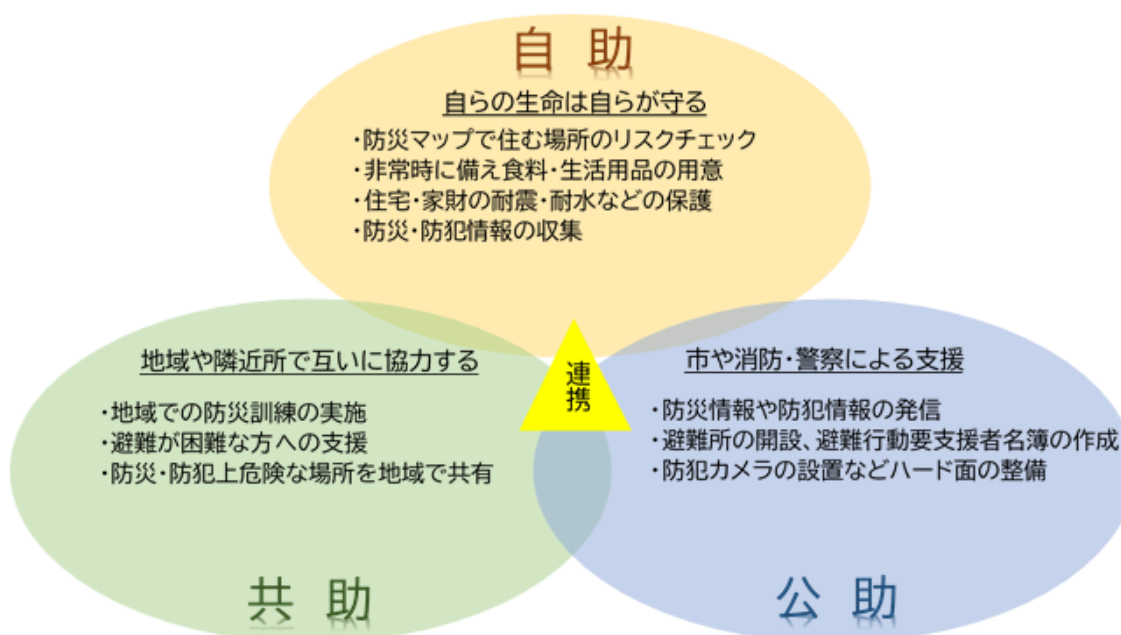


資料：国勢調査

2. 安全・安心への意識の高まり

- ・ 近年、全国各地で地震や台風、豪雨などの自然災害が発生し、頻発化、激甚化しています。
- ・ 災害の頻発・激甚化や自治体の職員数の減少により、行政だけでは災害時の対応が難しくなっています。災害時における自助と共助の重要性が高まり、自助・共助・公助がそれぞれの役割を担うことが求められるようになってきました。
- ・ 市民アンケートでも防災や防犯に関心が高くなっています。(防災・防犯)
- ・ 適切に管理されない空き家や空き地が増加し、防災、防犯、衛生、景観等の地域住民の生活環境に深刻な影響を及ぼすことが懸念されます。

図2 自助・共助・公助のイメージ



3. 社会経済や構造の変化

- ・ 2020 年に発生した新型コロナウイルス感染症は、経済や市民の生活に多大な影響を与えています。
- ・ 東京圏¹には、約 3,700 万人、日本の総人口の約 3 割（2019 年）もの人が住んでいて、人口が東京に一極集中しています。
- ・ 加茂市から県外へ転出する人の 6 割が東京へ転出（2020 年）しています。
- ・ 日本が目指すべき未来社会の姿として Society5.0²が提唱されています。IoT（Internet of Things）で人とモノがつながり、様々な知識や情報が共有され、新たな価値を生み出すことでさまざまな課題解決が期待されています。
- ・ 2030 年までの目標として「誰一人取り残さない」ことを誓って先進国が SDGs（持続可能な開発目標）に取り組んでいます。日本でも積極的に SDGs に取り組む自治体や民間企業が見られます。目標の達成には、国や自治体、企業だけでなく、一人ひとりの行動が求められます。

図3 Society5.0 で実現する社会（内閣府作成）



¹ 東京圏：東京都、埼玉県、千葉県及び神奈川県の一都三県のこと。

² Society5.0：狩猟社会（1.0）、農耕社会（2.0）、工業社会（3.0）、情報社会（4.0）に次ぐ新たな社会のこと。

4. 財政の深刻化

- ・ 生産年齢人口の減少などにより、市税収入の減少が見込まれます。
- ・ 財政の弾力性を判断する経常収支比率³は高い状態で、財政が硬直化しています。

5. 公共施設の老朽化

- ・ 多くの自治体で高度成長期（1954～1970 年）の頃に整備された公共施設、道路や上下水道などのインフラが一斉に更新時期を迎え、対策経費の増大・事故のリスクの高まりが懸念されています。
- ・ 加茂市においても、整備されてから 30 年以上経過している公共施設が 7 割強を占めるなど、道路や上下水道等を含めたインフラ全体が一斉に更新時期を迎えており、増大する対策経費の縮減と高まる事故リスクの低減が喫緊の課題です。

6. 自然・文化・伝統

- ・ 粟ヶ岳、加茂川、加茂山公園などの豊かな自然環境に恵まれています。
- ・ まちの中心部を流れる加茂川では、鯉のぼり展示や夏祭りが行われたり、秋にはサケが遡上したりしています。
- ・ 加茂山には、雪椿が群生し、歴史のある青海神社や公園、リス園があり市民の憩いの場として親しまれています。
- ・ 伝統的な産業として、桐たんすや建具、組子、屏風などの「木製品」があります。「木工業」が盛んです。

³ 経常収支比率：人件費、扶助費、公債費のように毎年度経常的に支出される経費に充当された一般財源が、地方税、地方交付税を中心とする毎年度経常的に収入される一般財源、減収補填債特例分及び臨時財政対策債の合計額に占める割合のこと。

4.3章 市民意識調査

1. アンケートについて

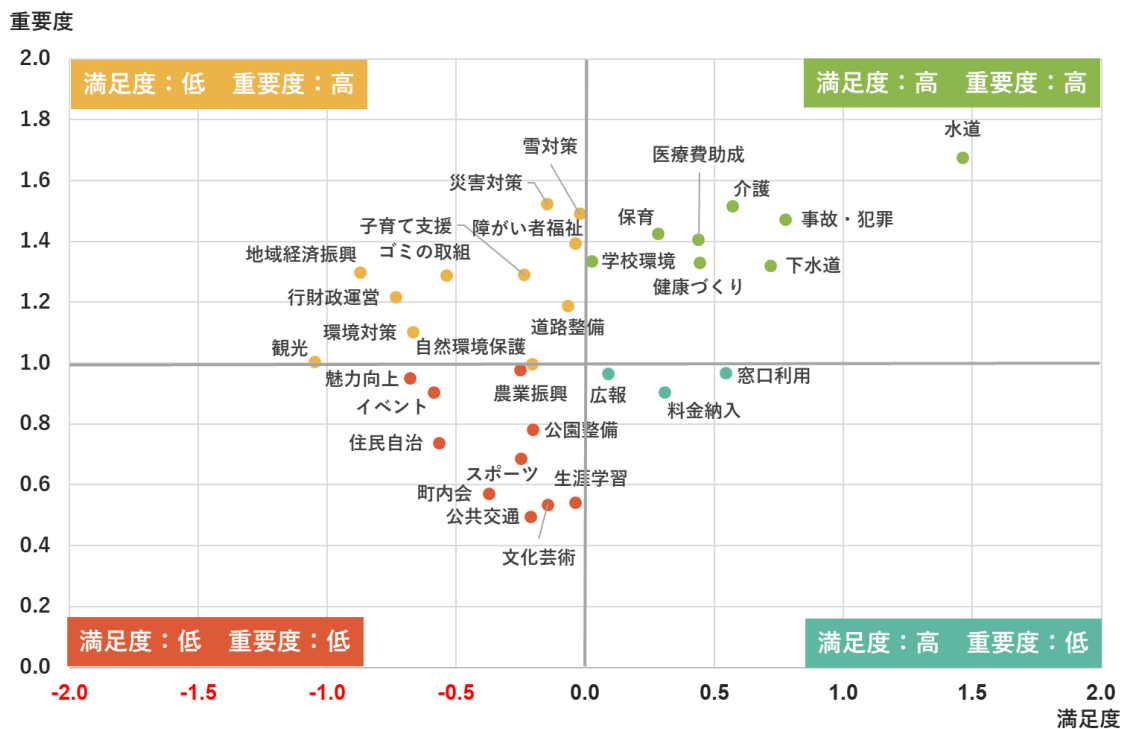
総合計画の策定にあたり、市民の意識を調査するため、18歳以上の市民2,000人と市内の中学校に通う3年生を対象にそれぞれアンケートを実施しました。

(ア) 市民アンケート

市民アンケート調査では、「子育て、医療・福祉」、「生活環境」、「都市基盤」、「教育文化スポーツ」、「産業・観光」、「市民参画・行政運営」の6分野における、これまでの加茂市の32の取組（施策）について、満足度と重要度を調査しました。

（2020年7月実施。点数化などの詳細については、巻末資料編参照）

図4 取組ごとの満足度・重要度

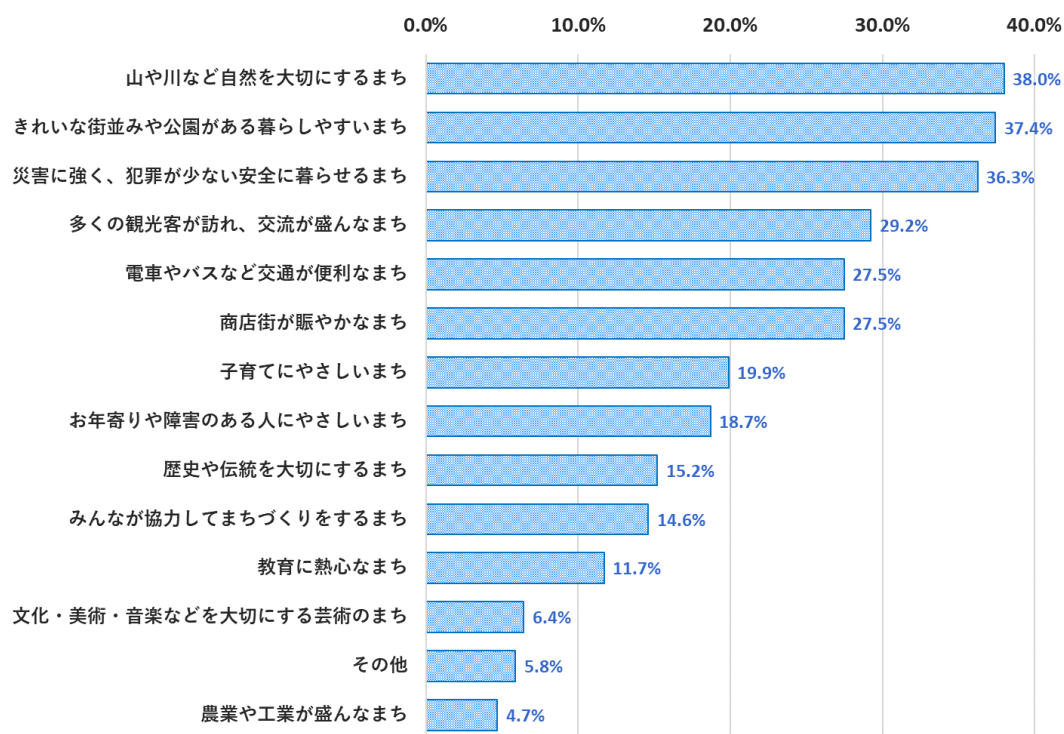


- 1) 「満足：高，重要度：高」：「水道」、「事故・犯罪」、「介護」、「下水道」
- 2) 「満足：低，重要度：高」：「地域経済振興」、「行財政運営」、「ゴミ減量等の取組」
- 3) 「満足：低，重要度：低」：「魅力向上」（まちの魅力向上，発信）、「イベント」（イベントによる市街地の賑わい）、「住民自治」、「町内会」（町内会等のコミュニティ活動）、「公共交通」
- 4) 「満足：高，重要度：低」：「広報」、「料金納入」、「窓口利用」

(イ) 中学生アンケート

加茂市から転出する人を年齢別に見ると15-19歳が最も多く、進学や就職によるものと推測されます。進学や就職を数年後に控えている中学生にアンケートを実施することで、若い人にとって魅力的なまちとはどんなまちか、加茂市がどんなまちになると良いか調査しました。

図5 「加茂市がどんなまちになると良いか」資料—中学生アンケート



回答が多かったのは、「自然を大切にすまち」や「街並み・公園がある暮らしやすいまち」、「安全に暮らせるまち」です。回答が少なかったのは、「教育に熱心なまち」、「芸術のまち」、「農業や工業が盛んなまち」です。

※アンケートは、市内の中学校に通う3年生を対象に令和2年7月実施。回答者174人。

※複数回答のため、割合の合計は100%になりません。

2. 市民ワークショップについて

総合計画の策定段階から市民との協働により取り組むため、とともに市民の意見を幅広く取り入れるため、市民ワークショップを開催しました。今後のまちづくりにおいて、どんな課題があり、どんな取組が必要かなどについて話し合いました。

~~（概要をまとめ、内容は資料編に掲載する予定）~~

第1回ワークショップ

日 時：令和2年9月26日（土）、10：00～12：00

テーマ：「加茂市の強み・弱み」、「10年後の加茂市について」

会 場：市役所 3階会議室

参加者数：36人（市民29人、職員7人）

第2回ワークショップ

日 時：令和2年10月10日（土）、10：00～12：00

テーマ：「それぞれの分野で充実した加茂市になるためにどのような取組が必要ですか」
設定した分野は、「子育て」、「福祉・健康」、「生活・環境」、「産業・雇用」、「教育・文化」、「協働・行政」の6分野

会 場：加茂文化会館 小ホール

参加者数：41人（市民32人、職員9人）

第3回ワークショップ

日 時：令和2年10月24日（土）、10：00～12：00

テーマ：「加茂市の出生率 なぜ低いのか」、「加茂市の子育て・教育が他市町村の人から
「いいね！」と言われるためには、どうすれば良いか

会 場：市役所 3階会議室

参加者数：28人（市民21人、職員7人）